景気動向調査報告書

令和8年10月末調査

この調査は、岡谷市の基幹産業である製造6業種（精密、機械、電気、計量、表面処理、鋳造）の企業の皆様のご協力により、今期（令和8年10月末）を基準とした業況等についてまとめた報告書です。

岡谷商工会議所・岡谷市産業振興部工業振興課

- 調査実施期間

前年同期	前　期	今　期	来　期
令和7年10月	令和8年4月	令和8年10月	令和9年4月

- 調査業種及び調査企業

（件数）

調査業種	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	合計
調査企業数	40	28	11	7	11	3	100
回答企業数	34	25	9	7	9	3	87

- 従業員数

人数	0～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～99人	100人～	合計
企業数	23社	12社	6社	9社	10社	17社	10社	87社

令和8年10月景気動向　調査結果のポイント

○今期の本市製造業の業況D.I（前期比）は、前期に続き、取引先の生産回復を主因として業況が好転する企業が増加し、プラスの水準を維持しています。半導体・AI関連需要の拡大を背景に好調を維持する企業が多い一方、自動車関連などの一部業種では需要に偏りが見られます。

○来期の見通しは、プラス水準を維持する見通しとなっています。人件費の高騰や労務費転嫁の遅れといった課題は残るものの、原材料高に対する製品価格転嫁の着実な進展や、取引先の生産回復の継続を背景に、引き続き改善傾向が見込まれます。

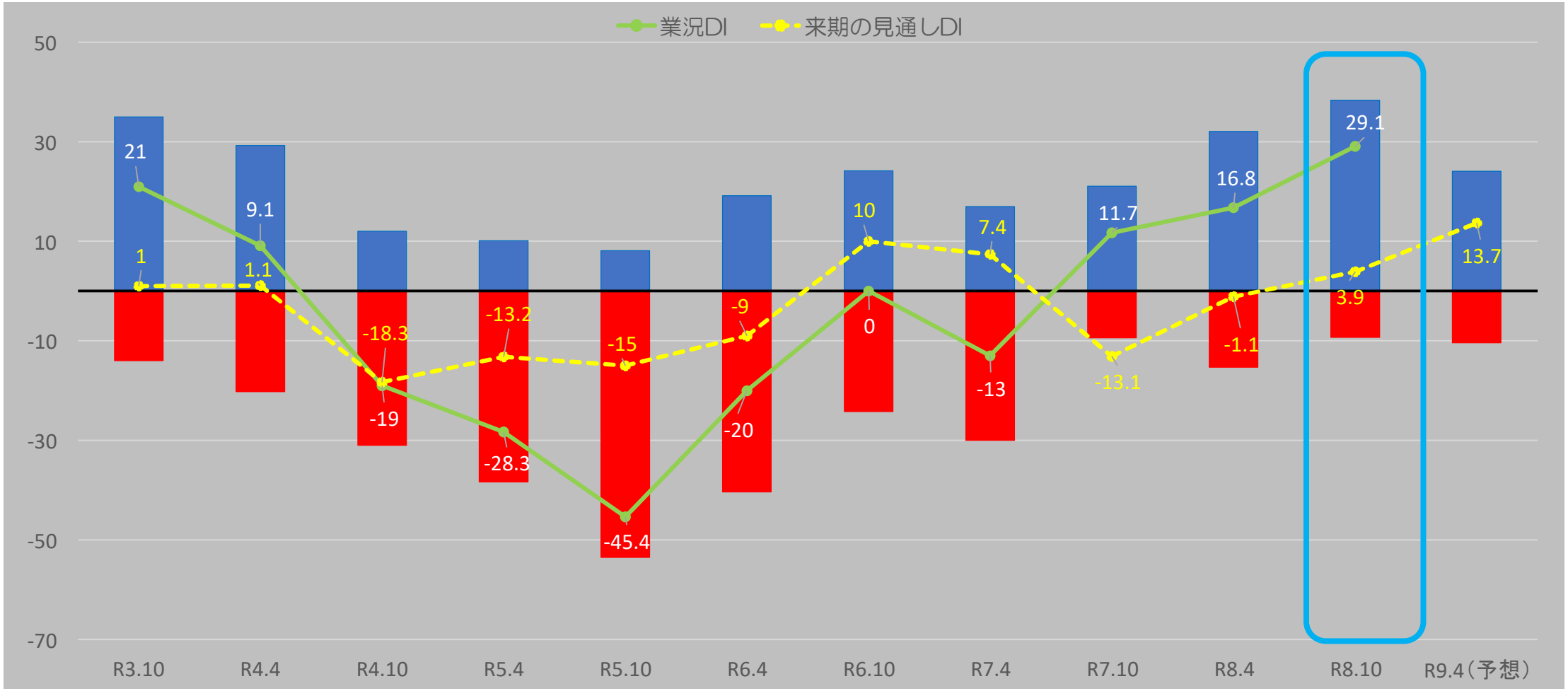
○人員体制については、「不足」と回答した企業が過半数を超え、人手不足感が依然として高水準で推移しています。各社とも賃上げなどの処遇改善を優先課題として掲げるほか、Web求人の活用や自動化・省力化ツールの導入など、能動的な課題解決への取り組みが広がっています。

※棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇、余裕）の企業の割合、マイナス側は減少（減少、低下、窮屈）の企業の割合です。折れ線グラフ（DI）は好転（増加、上昇、余裕）の企業の割合から減少（減少、低下、窮屈）の企業の割合を引いた差です。折れ線グラフ（来期の見通し）は調査時の来期（6ヵ月後）のDI値です。

（原材料仕入価格については、棒グラフのプラス側は減少（価格上昇）の企業割合、マイナス側は好転（価格下落）の企業の割合です。

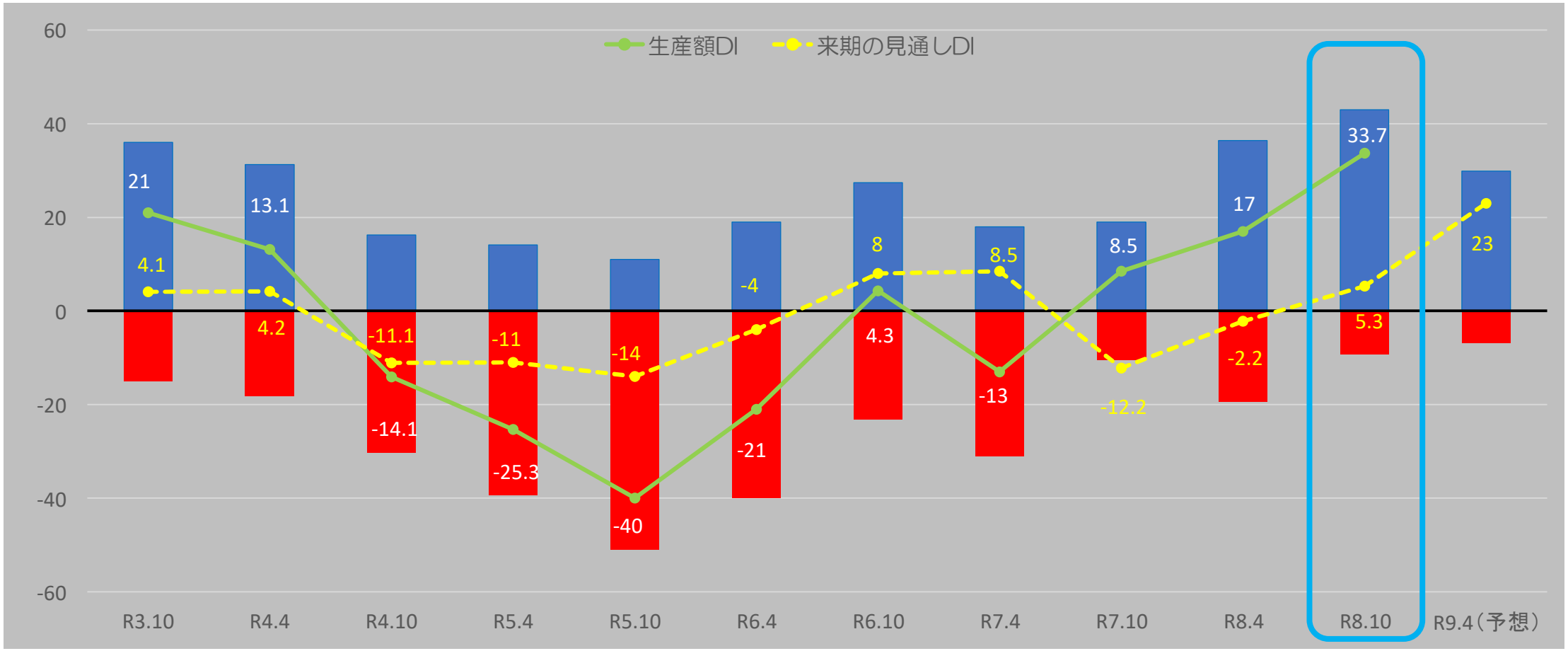
折れ線グラフ（DI）は減少（価格上昇）の企業の割合から好転（価格下落）の企業の割合を引いた差です。）

①業況DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



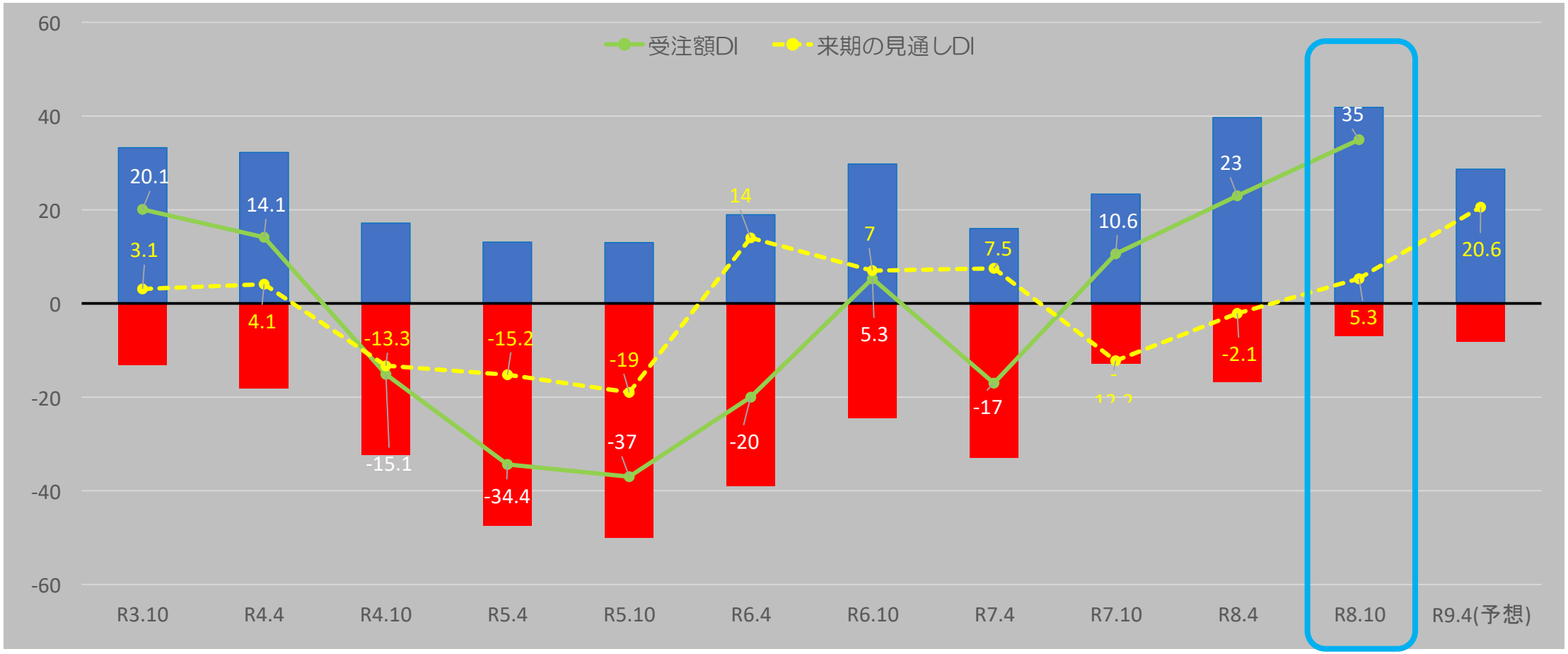
前期と比べたDIは29．1ポイントとなり、前期の16．8ポイントより12．3ポイント増加しました。
また、来期の見通しDIは13．7ポイントとなり、前期の3.9ポイントより9.8ポイント増加しました。

②生産額DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



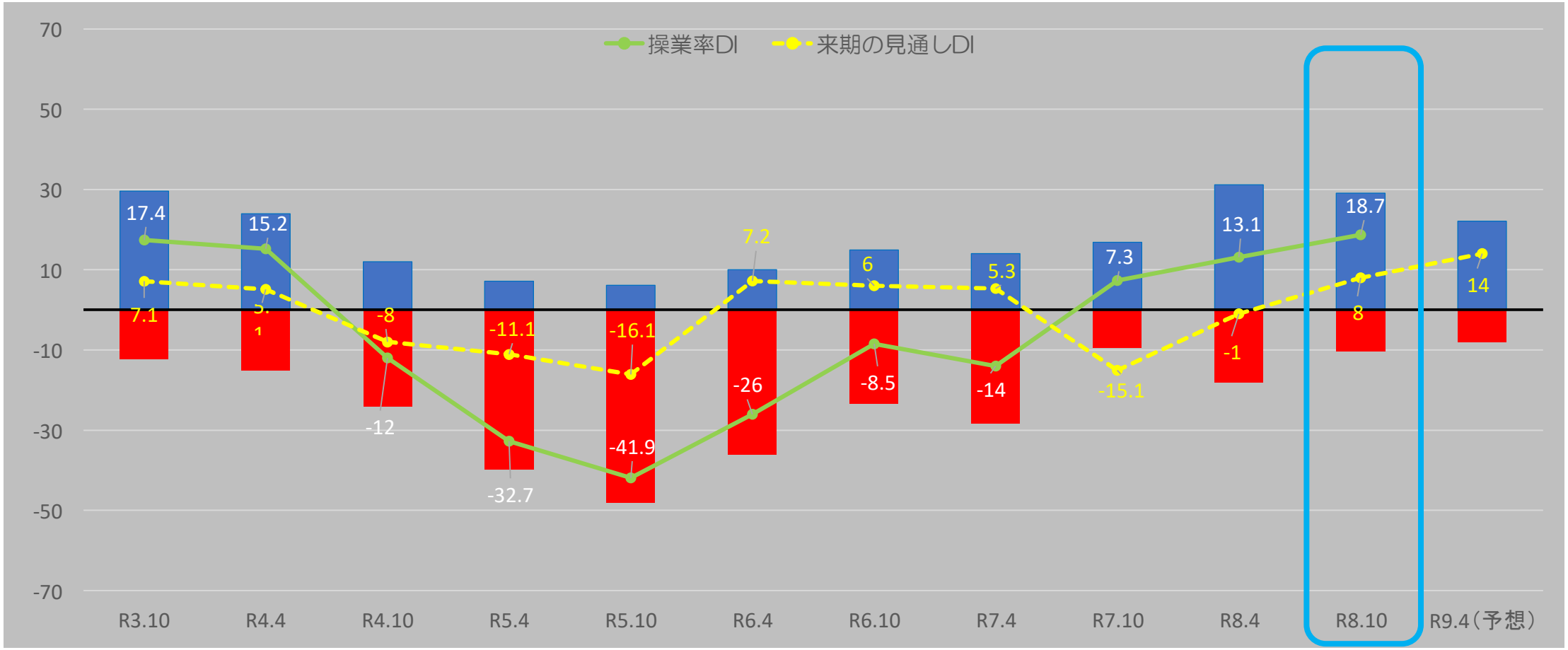
前期と比べたDIは前期の17．0ポイントより16．7ポイント増加し、33．7ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは前期の5．3ポイントより17．7ポイント増加し、23．0ポイントとなりました。

③受注額DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



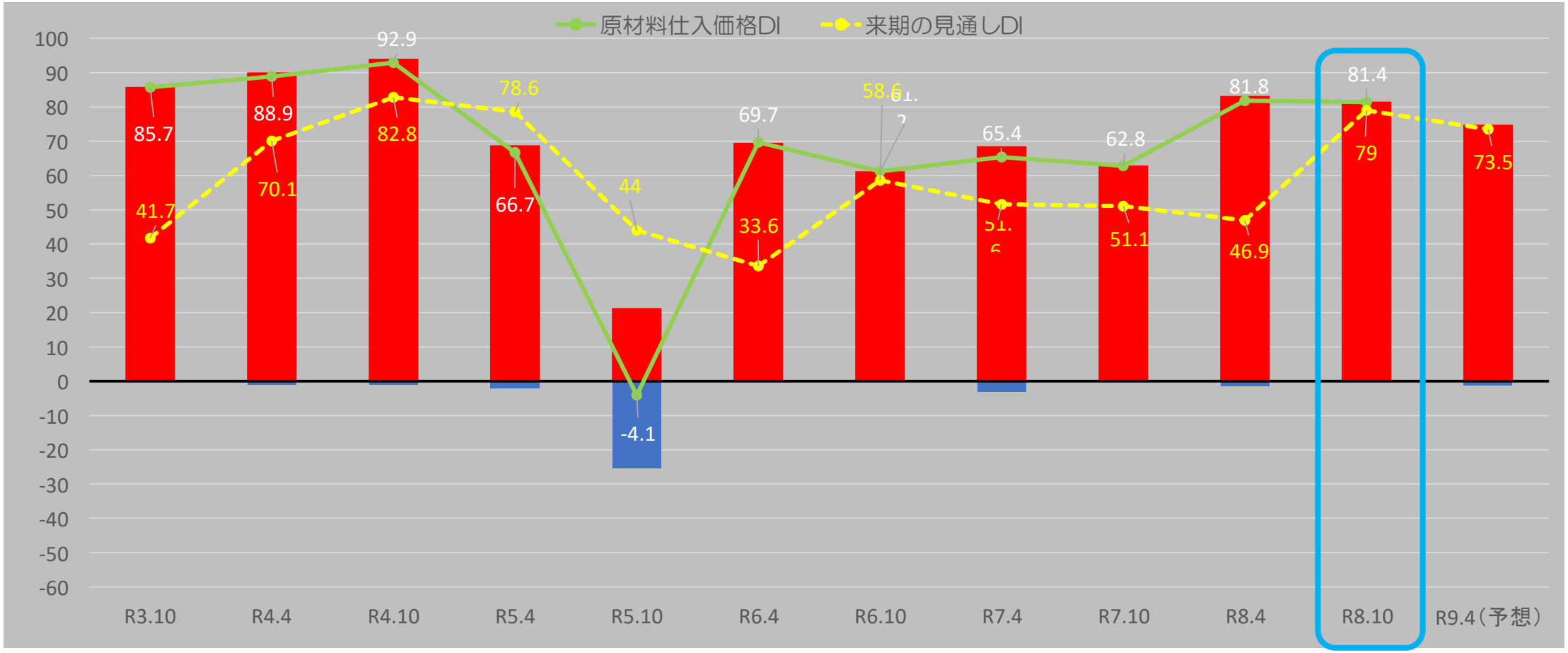
前期と比べたDIは前期の23．0ポイントより12．0ポイント増加し、35．0ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは前期の5．3ポイントより15．3ポイント増加し、20．6ポイントとなりました。

④操業率DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



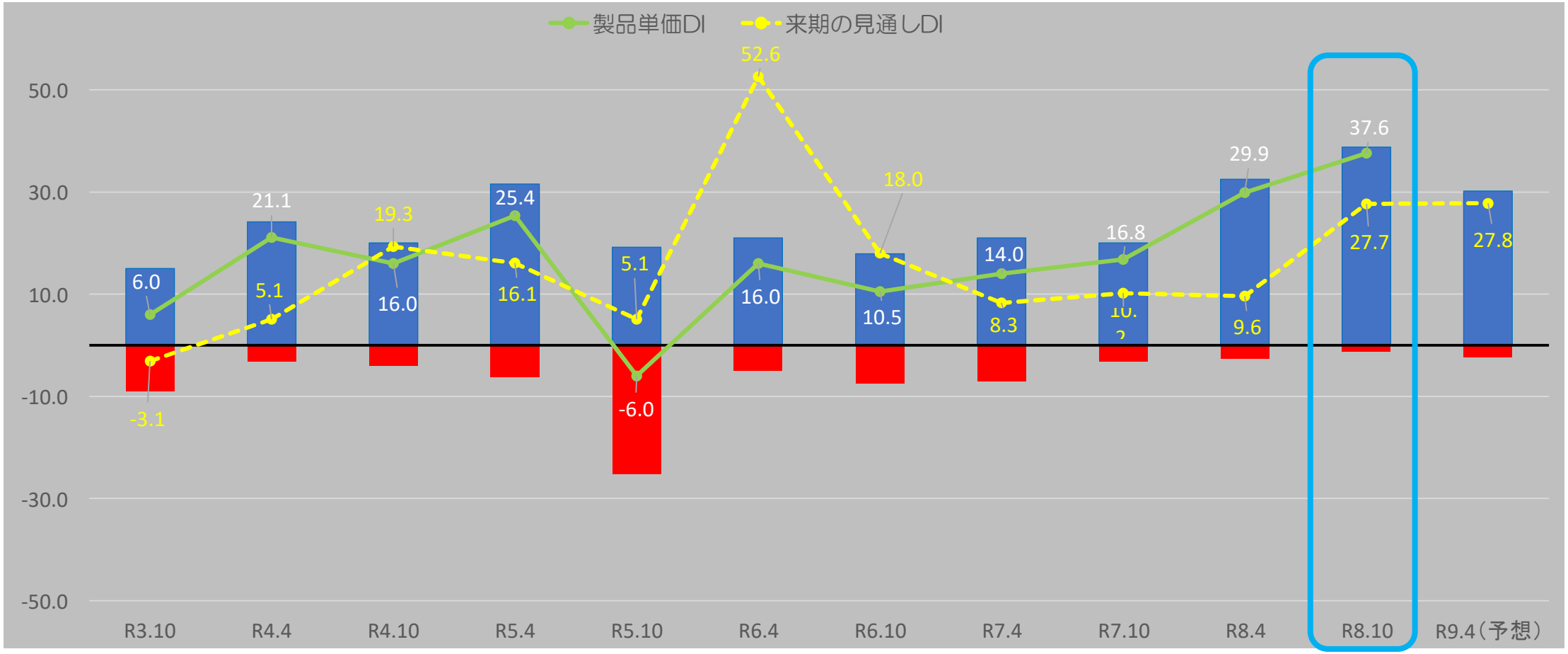
前期と比べたDIは、前期の１３．１ポイントより５．６ポイント増加し、１８．７ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の８．０ポイントより６．０ポイント増加し、１４．０ポイントとなりました。

⑤原材料仕入価格DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



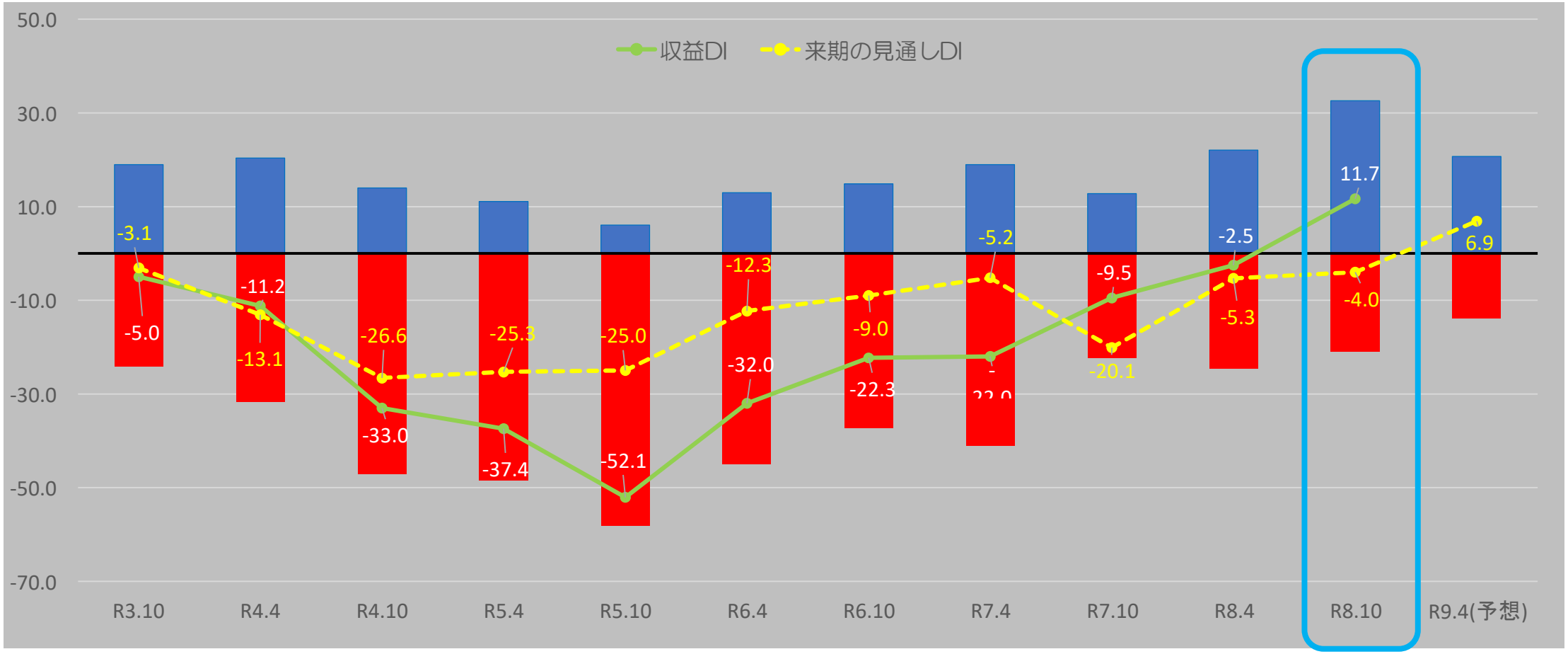
前期と比べたDIは、前期の８１．８ポイントより０．４ポイント減少し、８１．４ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の７９．０ポイントより５．５ポイント減少し、７３．５ポイントとなりました。

⑥製品単価DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



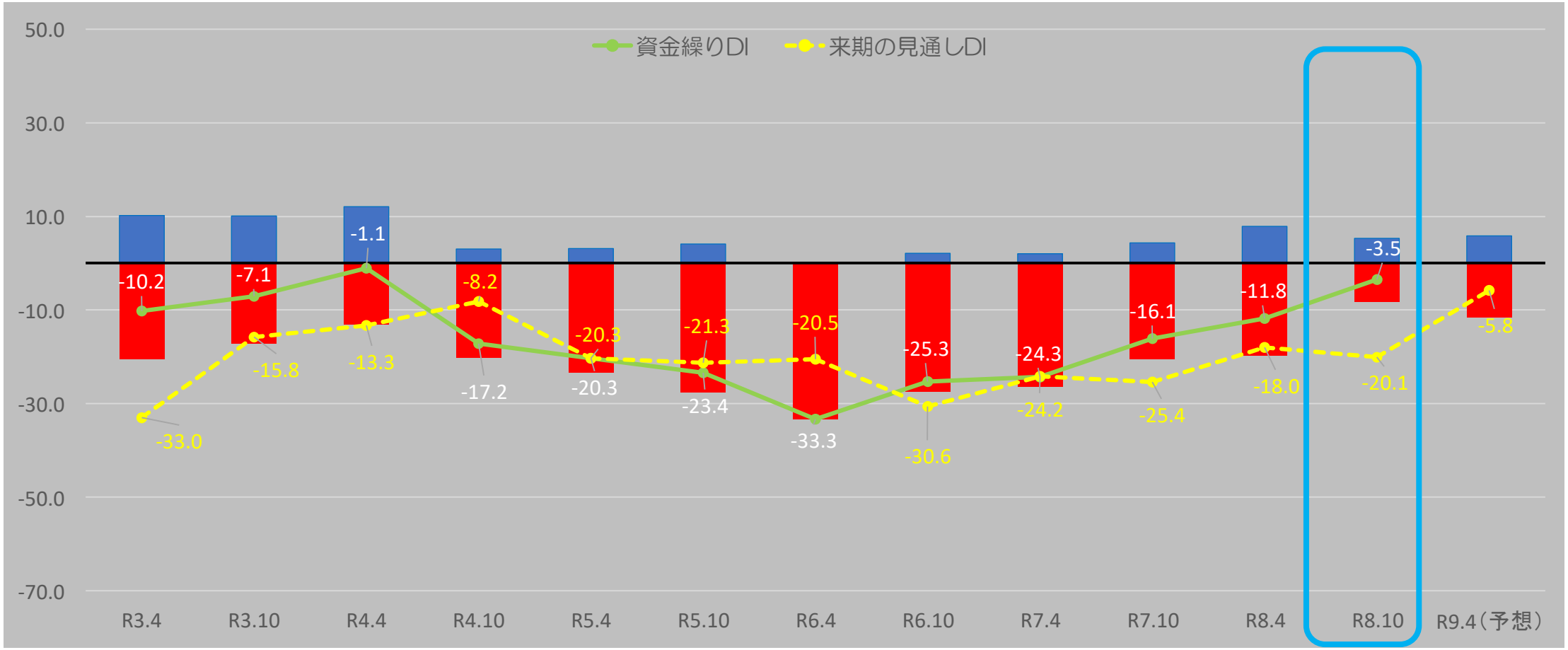
前期と比べたDIは、前期の29．9ポイントより7．7ポイント増加し、37．6ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の27．7ポイントより0．1ポイント増加し、27．8ポイントとなりました。

⑦収益DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



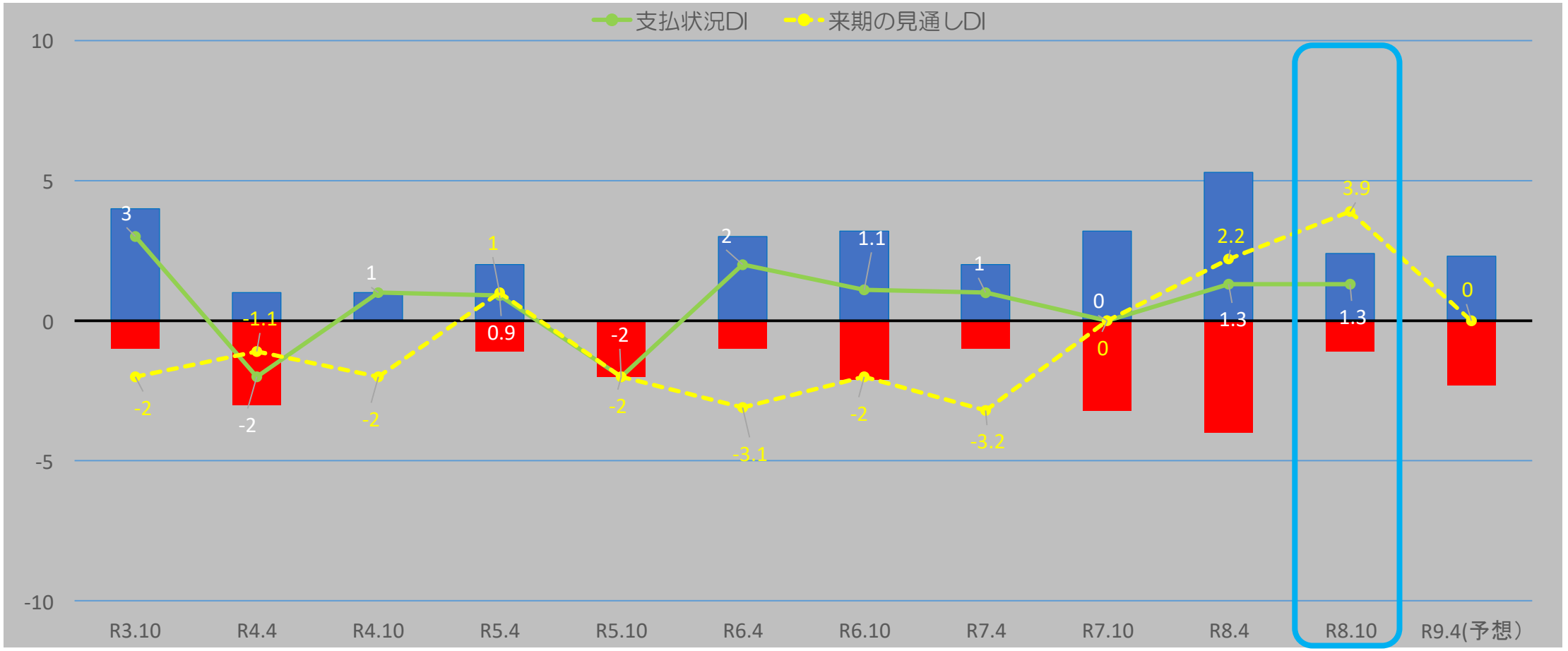
前期と比べたDIは前期の▲２．５ポイントより１４．２ポイント増加し、１１．７ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは前期の▲４．０ポイントより１０．９ポイント増加し、６．９ポイントとなりました。

⑧資金繰りDI【前期（6ヶ月前）に比べて】



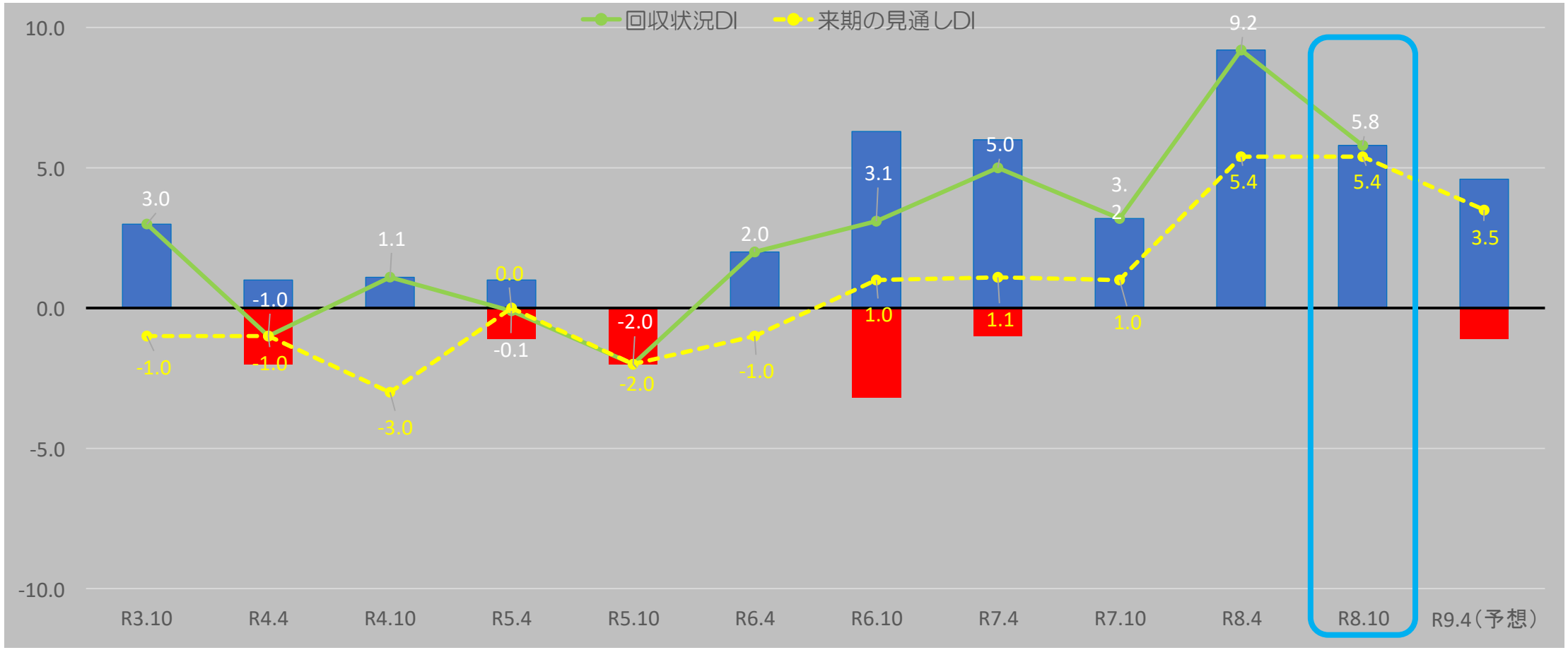
前期と比べたDIは、前期の▲11．8ポイントより8．3ポイント増加し、▲3．5ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の▲20．1ポイントより14．3ポイント増加し、▲5．8ポイントとなりました。

⑨支払状況DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



前期と比べたDIは、前期の１．３ポイントより変動はなく、１．３ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の３．９ポイントより３．９ポイント減少し、０．０ポイントとなりました。

⑩回収状況DI【前期（6ヶ月前）に比べて】



前期と比べたDIは、前期の９．２ポイントより３．４ポイント減少し、５．８ポイントとなりました。
また、来期の見通しDIは、前期の５．４ポイントから１．９ポイント減少し、３．５ポイントとなりました。

⑪今期の業種別業況DI

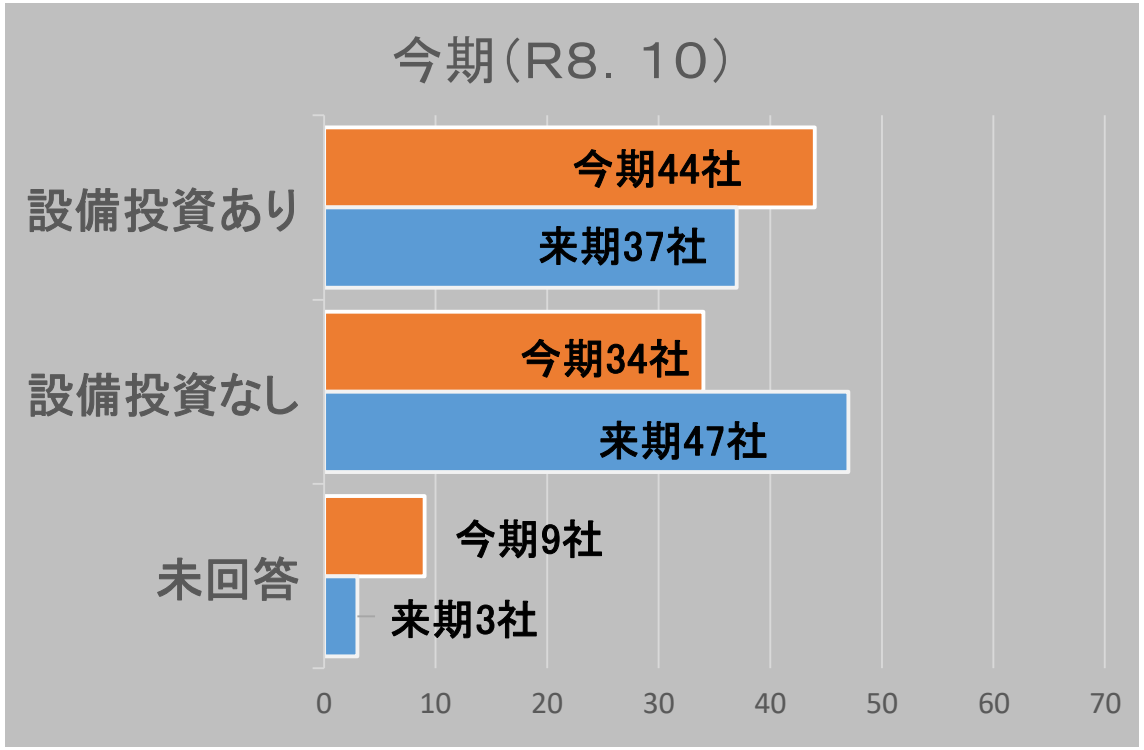
	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造
前期に比して	23．5	28．0	22．1	14．3	62．5	66．7
前年同期に比して	48．5	36．0	22．1	14．4	77．8	33．3

⑫設備投資について

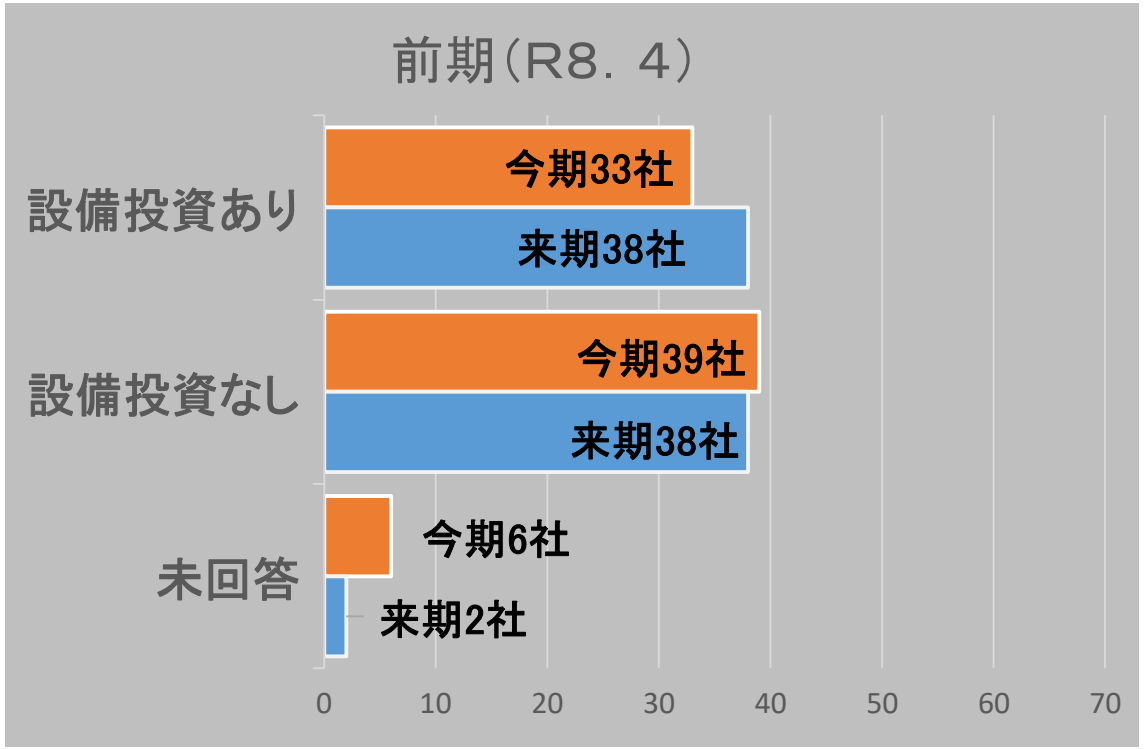
調査企業数：100社（回答87社）

・設備投資の状況について

（社数）



（社数）

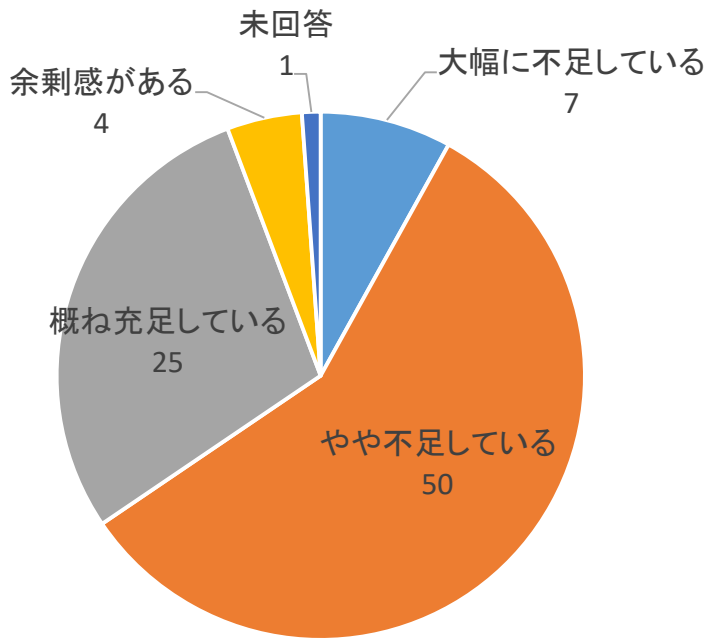


設備投資を行っている（計画している）と回答した企業が今期44社で、前期33社より増加しており、
来期に設備投資を行う予定の企業は37社で、前期38社より減少しています。

⑬人員体制と人材不足対策について

調査企業数：100社（回答87社）

・現在の人員体制について



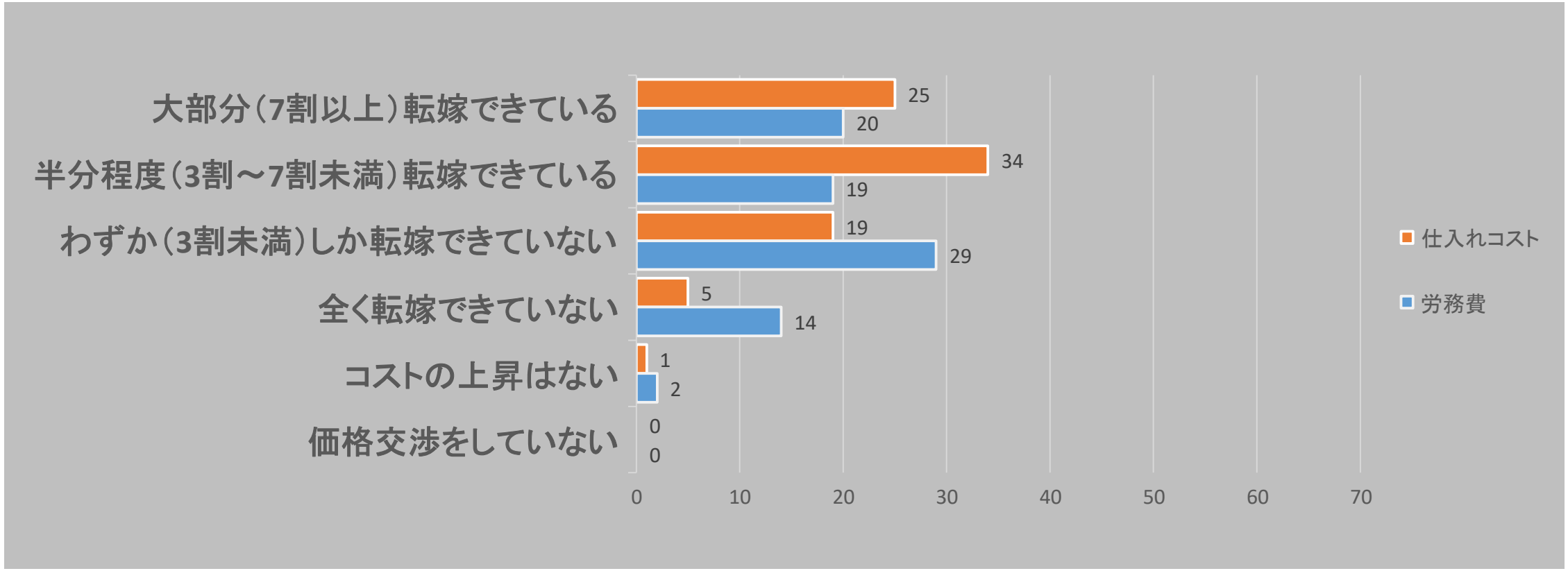
・人材不足対策について（実施予定含む・複数回答可）

項目	回答数
賃上げ・手当拡充などの処遇改善	３８
求人媒体の変更・見直し（Web求人、SNS等の活用）	２８
未経験者・シニア・主婦層などの採用拡大	２２
自動化・省力化設備やIT/AIツールの導入による効率化	１７
外国人材（特定技能・技能実習等）の受入・活用	１４
外部人材・アウトソーシング（副業人材・派遣など）の活用	９
その他	２

「概ね充足」は25社にとどまり、企業の過半数を超える強い人員不足感が見られます。対策では「賃上げ・処遇改善」による人材引き留め・確保を軸としつつ、「求人媒体の見直し」や「未経験者・シニア層等の採用拡大」で採用対象を拡大するほか、「自動化・IT/AIツール導入」による省力化の推進も広がっています。

⑭製品価格への転嫁状況

調査企業数：100社（回答84社）



仕入コスト（原材料費等）については、約7割の企業が、コスト上昇分の３割以上を価格転嫁できています。一方、賃上げ等に伴う労務費について、コスト上昇分の３割以上を価格転嫁できている企業は4割台にとどまっています。労務費は「わずか・全く転嫁できていない」が約半数（43社）を占めており、仕入コストに比べると転嫁にやや遅れが生じています。

⑮価格転嫁への課題（最大2項目回答可）

調査企業数：100社（回答61社）

項目	回答数
値上げによる受注量（客数）減少への恐れ	２５
競合他社との価格競争が激しい	２２
取引先（親事業者・発注元）からの値上げ拒否・保留	１４
コスト上昇の根拠（計算根拠など）の提示が難しい	１３
価格交渉を切り出しにくい関係性（力関係）	１１
その他	１１

価格転嫁への課題では、「値上げによる受注量減少への恐れ」と「競合他社との価格競争が激しい」が上位を占めており、失注リスクや市場競争が大きな障壁となっています。また、「取引先からの拒否・保留」や「価格交渉を切り出しにくい力関係」といった構造的な問題に加え、「計算根拠の提示難」も課題として挙がっています。その他では、事務負担に関する課題や継続的なコスト増による価格転嫁タイミングの難しさについて回答が見られました。